

現在、医療の分野にはIT化の大きな波が押し寄せています。電子カルテやPACSといったこれまでは大病院でしか実現しえなかったIT技術が中小の病院でも実用化されるようになりました。この全国的な、しかも急速な医療のIT化に伴い、今後医療ITを専門とする技術者が大勢必要です。この技術者はIT技術を理解しているばかりでなく、医療の実際的な専門知識も兼ね備えていなければなりません。そこで、「日本医療情報学会」が「医療情報技師」の育成に乗り出しました。これから紹介する「医療情報技師」については日本医療情報学会のweb site <http://plaza.umin.ac.jp/~jami/>あるいは<http://healthit.umin.ac.jp/>を覗けば詳しい情報が得られます。ここでは医療科学主専攻の学生諸君にとって重要な情報のみを紹介することにします。「医療情報技師」の仕事、目的などについては実際にweb siteを見て下さい。

1 受験資格 特別な資格は必要ありません。学生でも受験できます。試験が3本建てで、1) 医療情報システム系、2) 情報処理技術系、3) 医学・医療系に分かれており、医療系の資格を持っている人は3)の試験が免除されます。医療系の資格には医師、看護師、臨床検査技師、衛生検査技師など25の職種が含まれます。3)の試験の内容は「人体機能学」、「人体構造学」、「臨床病態学」、「保健衛生論」、「医療情報科学の医療制度部分」などで学ぶことよりも程度は低いです。試験が年に一度、8月上旬に行われるので、3年生の夏休みに受験すると良いでしょう（医療科学主専攻を卒業すれば、衛生検査技師の資格は申請すれば得られるのですが、この資格は近い将来廃止されることが決まっています）。

2 育成講習会 5～6月に全国8箇所で育成講習会が開かれます。費用は医療システム系の講習が1万円、他の2つがそれぞれ5千円です。教科書は3分冊となっていて、各3千円（税込み¥3150）。講習会では簡単な解説がありますが、広範な分野を1日ではとてもカバーできないので、試験に出るところはこの辺です、という情報を提供するのが目的のように思えます（試験に出ないという部分が出題されたこともあり、あまり当てにはならない）。受験には必ずしも講習会に出席する必要はありません。講習会の内容はともかく、指定教科書は1)、2)の分野が良く出来ていて、現在日本における医療情報技術の教科書のスタンダードと言って良いでしょう。受験に際しては最低これらの教科書が必要です。

3 合格率 第一回の試験が平成15年に行われ、全体の合格率は27.8%でした。医療関係者の合格率はこれより高かったようですが、試験を1つ免除されたのですから当然で

す。私も受験し、合格しました（落ちたらみっともなかった）。

4 合格するとメリットはあるのか、将来は？ 現在この「医療情報技師」の資格を認定されていても、特にはっきりしたメリットはありません。病院に臨床検査技師として就職した場合、この資格を持っていることで、病院側の窓口としてコンピューターやソフトウェアの納入業者（ベンダー）と協力、交渉に当たり、病院側の要望を取りまとめる役割を演じたり、という仕事が与えられるかも知れません。また、ITに詳しい便利な奴、という好ましい評価が得られるかもしれません。実は、この資格は実は医療情報に携わる技師としては初級の資格なのです。日本医療情報学会としては、より上級の資格試験を検討しているそうです。それはすべての分野（1～3）にわたってかなり高度な知識、技能を要求するものになると思われます。従って、受験資格としてまずこの「医療情報技師」の資格を持ち、ある程度医療の現場なり医療情報の現場で経験を積むことが求められるでしょう。その意味でこそ、この「医療情報技師」の資格の本当の存在価値があると言えるかも知れません。